

猪俣津南雄 日本の資本主義経済の現状分析に努め、<人民戦線事件>で検挙され、獄中で得た病で没した。

いのまたつなお

帝国憲法発布 1889 = 新潟市で、県下有数の油問屋に生まれる。

日清戦争始・1894 = 5歳：

子規句歌革新1898 = 9歳：

小学校時代に家が破産し、長岡の実母に家に引き取られ、  
長岡中学に進む。

日露戦争終・1905 = 16歳：

在学中、俳句をつくり、河東碧梧桐に師事、

韓国反日暴動1907 = 18歳：卒業後、小学校の代用教員となるが、向学心止みがたく、上京して苦学。

伊藤博文暗殺1909 = 20歳：高田砲兵連隊に入るも、  
独習し、

明治天皇没・1912 = 23歳：早稲田高等専門学校2年の編入試験に合格、  
大正政変・1913 = 24歳：卒業。

21ヶ条要求・1915 = 26歳：\_先輩・知己の援助を受けて渡米、

民本主義・1916 = 27歳：

\_苦学してウィスコンシン・シカゴ・コロンビア各大学で農業経済学を学ぶ一方、

\_ポーランド女性と結婚し、片山潜の指導する在米日本社会主義者団に入り、

原敬首相暗殺1921 = 32歳：帰国、早大講師となった。

水平社結成・1922 = 33歳：\*日本共産党結成とともに入党。

関東大震災・1923 = 34歳：早大軍教事件で活躍したが、\_第1次共産党事件で検挙され、

護憲三派圧勝1924 = 35歳：以後3年、翻訳と解説書の執筆で糊口をしのぐ。共産党解党に際して賛成派に属し、

治安維持法・1925 = 36歳：

円本時代始・1926 = 37歳：4ヶ月の刑が確定して入獄、\_労農党結党後は共産党の方針に批判的立場をとり、

金融恐慌・1927 = 38歳：

\*"二七年テーゼ"と対立。雑誌「労農」発刊とともに、その同人となり、以後"労農派"の論客として活動。「現代日本ブルジョアジーの政治的地位」、

共産党事件・1928 = 39歳：「帝国主義研究」。\_無産大衆党の中央執行委員となったが、

世界恐慌・1929 = 40歳：

\*同党の日本大衆党合流後、党内右派により除名される。以後は書齋においてもっぱら日本資本主義の現状分析し、「現代日本研究」以降、次々と著作を発表するも、

海軍軍縮条約1930 = 41歳：「没落資本主義の「第三期）」、

満州事変・1931 = 42歳：

五一五事件・1932 = 43歳：「金の経済学」、

帝人疑獄事件1934 = 45歳：

いわゆる日本資本主義論争にはほとんど参加しなかったが、独占資本の支配の貫徹を強調する彼の見解は、「講座派」の主たる批判の対象であった。

日中戦争始・1937 = 48歳：\*「農村問題入門」を最後に、人民戦線事件で検挙され、

第二次大戦始1939 = 50歳：\_獄中で得た病気のため、拘留停止となったが、

日米開戦・1941 = 52歳：

..... 1942 = 53歳：\_貧窮のうちに、没した。